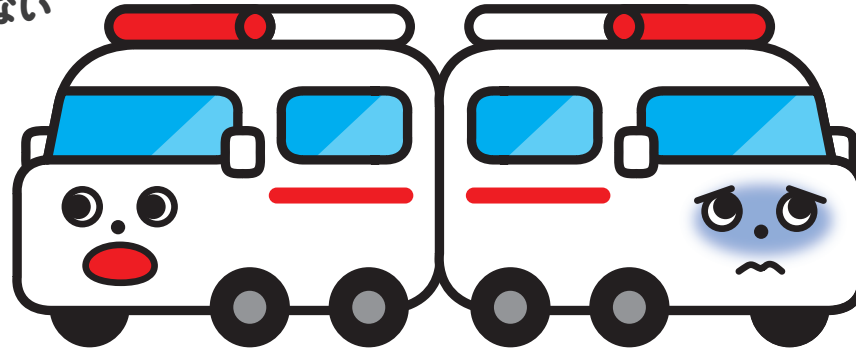


こんな場合は
すぐに救急車を!

- 激しい胸痛、腹痛、頭痛
- 広範囲のやけどなど
- 骨折して歩けない
- 意識がない
- 呼吸困難
- 多量の出血

命を守る救急車の利用 実態が変化してきています。



× 緊急性のない軽症
(かぜ、切り傷、打撲など)
のとき

× 「いい病院に搬送してほしい」
「優先的に診てもらえそう」
などの理由で

× 通院や入院するときの
タクシー代わりに

こんな使い方は
困ります!

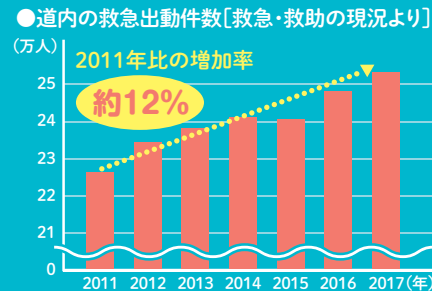
救急車の適正な利用

このままでは救急医療体制が崩壊してしまいます。
救急車本来の役割を考えて利用しましょう!

救急車の出動件数は増加傾向に

2017年の道内における救急車の出動件数は、過去最多を更新する253,148件(前年比2.0%増)。ここ数年は増加傾向に拍車がかかっています。

また、同年の全国の救急出動件数も、過去最多の6,342,147件(前年比2.1%増)を記録しました。



救急車の到着時間にも影響が...

「症状が軽くても救急車を呼ぶ」利用の仕方は、救急医療体制の混乱を招き、救急車の現場到着所要時間にも影響しかねません。実際に2007年の全国平均は7.0分でしたが、2017年には8.6分と1分半以上も延長しているのです。

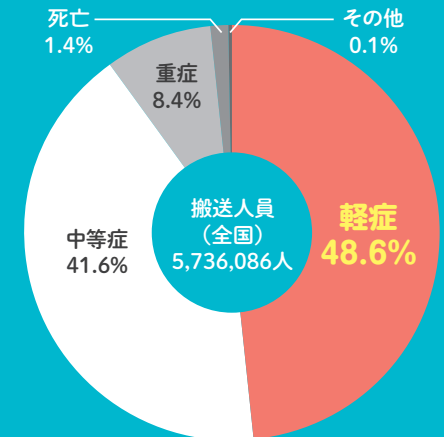
搬送される約半数が軽症者

救急車の出動件数が増加した消防本部の多くが、「緊急性が低いと思われる傷病者(=軽症者)の増加」をその大きな要因の一つとして挙げています。

救急車で搬送された傷病患者全体に占める軽症者の割合は、2017年で48.6%。その割合はほぼ横ばいで推移していますが、搬送件数の増加に伴って、軽症者の利用数も増加していると言えるでしょう。

※それ以外にも、「高齢の傷病者の増加」が要因として挙げられており、核家族化による高齢者世帯の増加や、介護施設に入所しているお年寄りの容態が悪化し、救急搬送されるケースが増えていることなどが影響していると考えられます。

●救急車による傷病程度別搬送人員



総務省消防庁「平成30年版救急・救助の現況」より